

## 自ら得た情報をわかりやすく発表しよう

総合的な学習の時間 第3学年

宝達志水町立志雄中学校・教諭

### 1 事例の概要

本校の総合的な学習の時間は、生徒が自ら課題を見付け、自ら学び自ら考え、問題を解決するなどの『生きる力』を育てることをねらいとしている。本校では、このねらいを踏まえつつ「生き方の自覚」を意識して、「課題発見・課題設定能力」「課題解決能力」「情報発信能力」という3つの付けさせたい力を設定し、毎年、実践と反省をもとに「総合的な学習の時間」のカリキュラムのリフォームに努めてきた。

平成12・13年度は県の実践研究推進校として総合的な学習の時間の研究実践を行ってきた。さらに、平成14年度は評価の工夫、平成15～16年度は『志雄タイムノート』を生かした支援の工夫を重点的に研究を進めてきた。また、平成16年度以降は学習指導要領の一部改正に伴い、各教科との関連を図りながら、より一層の効果的な指導法の改善に努めている。

#### A-1 「総合的な学習の時間」の全体構想図

### 2 実践内容

#### (1) 単元の見直し

- ・各グループごとに発表し、お互いに情報を共有し、交流する。
- ・学年・学校、さらには校外に向け情報を発信する。
- ・創造的・創作的活動を通して表現する。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 「情報発信・交流」段階において育成したい資質・能力の明確化

本校では生徒の発達段階を考慮し、系統性を考えている。学年が上がるにしたがって身に付く力が深化・拡充していくように、それぞれの学年で付けたい力を重点化し、関連する学習スキルとメディア学習や、発表方法などを系統的に設定した。

##### ② 教科との関連の明確化

「総合的な学習の時間」では、課題の発見やその解決のために生徒が各教科、道徳、特別活動などで身に付けた知識や技能を関連づけ、総合的に生きて働くようにしていくことが大切である。また、「総合的な学習の時間」で培った学び方を各教科などの学習に生かしたり、生活に生かしていくことが求められている。そこで、教科・道徳・特別活動の学習の中で、「総合的な学習の時間」につながる資質や能力を洗い出し、授業の中で意図的に指導し生徒が身につけることができるように配慮した。

##### ③ 評価の工夫

生徒は、志雄タイムの2時間ごとの活動のまとまりの中で、ワークシート（『志雄タイムノート』）を活用しながら、その日の活動のめあてを確認するとともに、時間の終わりに自分の達成状況を確認し、自己評価を行っている。一方、教師は個々の生徒の活動内容や進行状況を把握したり、必要なときにはアドバイスをしたり、学習に対するコメントを書いたり、適切な指導や支援を充実するために利用している。

#### B-1 「総合的な学習の時間」の目標と付けたい力の系統図

#### B-2 「総合的な学習の時間」に生きて働くように教科・道徳・特別活動で身に付けさせたい力

#### B-3 『志雄タイムノート』の活用

### 3 指導の実際

配時	学 習 活 動	評価 (□) と教師の支援 (◎)
3 5	<p>課題 自分達が調べてきたことをわかりやすく伝えよう。</p> <p>2 「国際理解によって私たちにできること」の発表する。 ・司会進行は生徒に任せる。</p> <p>《発表の流れ》 ①発表時に使用する機器などの準備 ②発表ワークシートに感想や質問、意見を書く ③感想や質問、意見を発表する</p> <p>・「先進国の教育について」の発表 ・「世界の食文化について」の発表 ・「ハングル文字について」の発表</p>	<p>◎発表を聞いての質問や意見を率直に出し合うように促す。</p> <p>◎発表内容や質問・意見が、これからの自分の活動の手がかりになるように促す。</p> <p>□他グループの発表を聞いて、今後の活動の手がかり（参考となる視点）をつかんでいる。</p>

C-1 指導案

C-2 3年 志雄タイム 年間指導計画

C-3 中間発表会用ワークシート

### 4 成果と課題

#### (1) 「情報発信・交流」段階において育成したい資質・能力の明確化

3年間の系統図を作成したことにより、教師は各単元で付きたい力などを意図的に、重点的に指導することができた。また、本時で生徒達は、比較的容易にプレゼンテーションができることに驚き、今まで発表に敬遠がちな生徒に対する意欲を盛り上げることができた。今後とも、生徒が総合的な学習を進める上で、より効果的なメディア学習の持ち方やそれぞれの場面での教師の指導と支援のあり方についても、さらに検討していかなければならない。

#### (2) 教科との関連の明確化

国語の言語活動、社会の観察・資料活用、見学・調査活動、理科の観察・実験、数学の統計処理、特別活動の話し合い活動と実践活動などで、各教科で身に付けた知識や技能を相互に関連づけ、生徒の中で総合的に生きて働きかける場面が見られた。今後とも複数の教科と関連させて、「総合的な学習の時間」と往復する広がりの中で、的確な知識を駆使して自らの学びをとらえ深める視点を育てていくよう意識することが大切である。

#### (3) 評価の工夫

授業の終わりに振り返ったとき、ねらいや身に付ける技能や考え方がどのように深まったか、また、何が足りなかったかを明らかにできる手だてとなった。ワークシートについては、それぞれの学習活動において、生徒の評価をより深化・拡充させ、自己学習力をつけていくために、今後ともワークシートを改善していきたい。

D-1 各教科等との関連付けを図る実践例